



編集後記

今号の取材の際に、理工系の学者の

お話を伺うチャンスがあった。東京のヒートアイランドについて、さまざまな情報と方策を伺うためである。親水工学がご専門で、海水浴の権威である日本大学理工学部海洋建築学科の特任畔柳教授は、都市におけるヒートアイランドについてお話をされた際に、夕涼みがなくなったことに言及された。かつては昼間にいかに灼熱の太陽が照りつけようとも、夕方には涼しさが戻り、人々はそぞろ外に出てきて夕涼みをするのが日本の原風景であった。そうすれば、そこで隣近所との挨拶があり、交流も生まれ、人と人の付き合いが自然に生まれてきたのである。

ところが昨今の暑さは並尋常ではなく、日が傾いても夕涼みに出てくる人もなく、都内の住宅街はあたかも廃墟のように人が外にいない風景になっているというのである。



辺に行き、海水浴を経験したものが、昨今はあまりの暑さに渚に出向く人も少なく、海水浴自体が低調なのだという。せつかく海辺に出かけてもエアコンの効いた「海の家」に入り浸っているようでは意味がない。

波打ち際に子供を遊ばせ、親が万一に備えてそれを見守る。そうすることで、親の方も子供の方も、危機管理能力が養われるのだそう。その経験が欠落しているように、様々な場面で人間が経験しなければならぬはずのものが省略されてしまう傾向が見受けられるというのだ。

昨今の豪雨による被害についても、様々な防災対策が行き届けば行き届くほど、個々の家庭や個人レベルでの危機管理がおろそかになり、畢竟自己管理の範疇にある防災が欠如していく傾向は否めないのだそう。

編集という仕事に携わるおかげで、多くの著者の皆さんや今回のように学者の方のお話を伺うチャンスを得ることはまことに素晴らしい経験で、其々の先生たちがご専門のお話だけでなく、そこから派生する、いわば「雑学」の部分のお話が限りなく興味深いのである。さらに、そうした含蓄のあるお話の中には示唆の溢れるものが数多くあり、そうした内容が、今我々が直面している諸問題に役立つと思えることが多々あるのだ。

どうも我が国の立法も行政も、こうした含蓄あるお話を耳を傾けるお時間もご興味もないようで、とりあえず「有識者会議」などというものを立ち上げることでお茶を濁している節がある。

ご多忙なのはわかるが、時にはゆつくりと学者や文化人の方たちの「雑談」に耳を傾ける時間をお取りになられたらと思う。いま、この国に不足しているのは、そうした雑談や雑学の中に見える隠れする「文化」なのではないだろうか。

聞きたがり、知りたがりの小生の相手をして下さる心優しい学者諸先生、著者の皆さん、どうかこの先も雑談のお相手をよろしくお願い申し上げます次第である。(溪)

月刊公論 MONTHLY KÖRON

9月号 第51巻9号

平成30年9月1日発行 毎月20日発売
本体価格848円(税別) 送料86円

発行人 大中吉一 編集人 林 溪清
発行所 株式会社財界通信社
〒160-0008 東京都新宿区三栄町25ポナフラービル
TEL.03-5379-5611(代)、FAX.03-5379-5616
印刷所 株式会社廣濟堂
取次店 日本出版販売/大阪屋栗田

●直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
●万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。